

日本の製造業から学ぶ

ーベトナム、ミャンマーで考えるー

開倫塾

塾長 林明夫

Q：ベトナムとミャンマーには、何をするために行ったのですか。

A：(林明夫：以下省略)社外取締役をおおせつかっているマニー株式会社のハノイとヤンゴンにある現地法人の監査のため、10月9日から14日まで出かけてきました。

マニー株式会社は、宇都宮市に本社のある精密医療用器機メーカーです。白内障手術用のメス、歯科の歯根治療用ダイヤモンドバー、手術後縫い合わせる時に使うホチキスのようなもの、約3000種類の手術用の針など、世界最高の品質のものを製造しています。

Q：ベトナムとミャンマーでの日本の製造会社の評判はどうですか。

A：極めて高いようです。例えば、日本の会社はどこでもそうでしょうが、マニー株式会社は採用や研修、配置、処遇、評価などについて、学歴によって差を付けることはありません。しかし、ミャンマーでは明確な差がある職場がほとんどのようです。ほかの日本の会社と同様、マニー株式会社でも、どんなに立派な学校を出た人でも、仕事がよくできなければ評価は高くないし、昇進もありません。逆に、難しい学校を出ていなくても、仕事の出来る人は評価が高く、昇進もし、職場のリーダーになることができます。この日本企業の実力主義は、高く評価されているようです。

Q：研修などもするのですか。

A：世界最高水準の医療用精密器材のメーカーですので、世界最高水準のスキルが全従業員に求められます。そのための研修が、とても評価が高いようです。

Q：なぜですか。

A：①研修のカリキュラムが十分考え抜かれ、その質が高いこと。②研修を担当する人が、その仕事に精通し、カリキュラムに沿って一人ひとりの研修生にきめ細かく指導する。つまり、先生の質が高いこと。③研修目的が明確で、その目的達成のために成すべきことを最も効率的に行う。つまり、研修におけるマネジメントの質が極めて高いこと。これらのためだと思われます。

工場内での日本語の研修、日本での研修も極めて評判がよいようです。

Q：ほかに、その地域ではあまり行われていないことで日本企業が評判のよいことはありますか。

A：食堂委員会が毎週メニューを検討し、ご飯とスープはおかわり自由の給食、エアコンディショナー(クーラー)の入った工場、ウォシュレット付きの水洗トイレ、現地の文化伝統に基づいた社内行事、社内旅行などは、高く評価されているようです。その地域としてはほぼ最高水準で支払われている給与も、評価を高めているようです。

日本からの現地法人の社長が、事務所に居るだけでなく、工場内にもどんどん入って技術指導をしたり、トラブルがあれば一緒に解決したりする率先垂範の姿勢も尊敬を集めているようです。

排水をはじめ環境に負荷を加えるようなものへの対処を日本とほぼ同じ水準で行っていることも、当たり前なこととはいえ、評価につながっているようです。

Q：現地のスタッフ、特に現地法人の日本人社長を支えるスタッフは優秀ですか。

A：はい、極めて優秀です。男性も優秀ですが、女性のマネージャーの優秀さが目立ちます。ほかの日本の会社と同様、マニーは実力主義ですので、優秀な人材はどんどん登用、昇進させます。その結果、極めて優秀な女性マネージャーも活躍する職場となりつつあります。

「世界最高の製品を世界のすみずみに」というマニー株式会社の企業理念、社会的使命(mission ミッション)を心から理解し、自分自身と従業員の生活向上だけでなく、その地域や国の発展のために働くのだという高い志、誇り高い精神が、マネージャーたちに強く感じられ、感動を覚えました。

Q：学習塾、予備校、私立学校の経営者の皆様に考えて頂きたいことはありますか。

A：独自の経営理念、社会的使命(mission ミッション)を明確にして熱く語り続け、全員への浸透を目指し続けるのが経営者の仕事。「高い志」を、現地法人のマネージャーにまで持ってもらう日本の製造業に学ぶところは大きいと思います。

日本のものづくり、製造業の研修システムは刮目すべきものがあります。各社が独自の生産方式を考え出し、その方式を支える専門技術者を養成するために、すべてを知り尽くした研修担当者が研修計画を練り上げ、一人ひとりが身に付くまで教え続ける。トヨタやニッサンの生産方式、その研修のしくみなどを、教育機関の経営者は素直な心で学ばせて頂くと得ること大と思われれます。

Q：新年を迎え、最後に一言どうぞ。

A：ベトナムでもミャンマーでも、私が質問し続けたのは、中学生、高校生、大学生は学校外でどのくらい勉強しているのかということでした。その結果、中学生は日本の中学生と同じくらいですが、高校生の大半は3～4時間、大学進学を目指す人は誰でも眠る時間以外は勉強、大学生も眠る時間以外は勉強という答えが、お尋ねした方全員から返ってきました。また、なぜそんな当たり前のことを聞くのかと逆に質問されることもありました。

日本の教育の最大の問題は、「高校生の勉強時間の少なさにある」のではないかとの確信が深まってきました。

皆様はどうお考えですか。

今年もどうかよろしく願いいたします。

— 2006年10月22日記 —